

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

ミヤマキリシマの九重山

長者原からの九重連山



6月上旬の梅雨の合間、大分県・九重山に出かけた。初日は大船山（1786m）に登り、翌日は久住山（1787m）に登って帰る計画である。

九重か久住か、ややこしいが、久住山、大船山、稲星山、星生山、中岳、三俣山、白口岳などの連山の総称が九重山群であって、その主峰が久住山である。ちなみに、九州には阿蘇、霧島、雲仙など名山が多いが、この久住山こそ九州の最高峰である。

朝10時、九州横断道路の長者原に車を置いて登山開始。ヘルスセンターの裏手から雑木林の中を緩やかに登る。11時半、雨ヶ池。後は、眼下に坊ガツル、正面に平治岳や大船山を望む広い道を散歩して12時、懐かしの法華院温泉に着いた。

法華院温泉



一休みの後、大船山に向かう。途中、平治岳への道を左に分けて雑木林を抜けると

アセビやミヤマキリシマが現れ始める。北大船山の急斜面をあえぎあえぎ登り、ようやく午後1時半、段原火口原に飛び出した。右手に大船山、左手に北大船山の山腹一面がミヤマキリシマの大群生である。山一面を埋め尽くすピンクのジュウタンの鮮やかさに圧倒される。都会では味わえない色の饗宴。これが山登りの功德というものか。

更に火口壁に沿って右に登り、20分程



大船山(段原から)

で大船山頂に到着。360度の展望が楽しめるはずが、あいにくのモヤで阿蘇山、祖母山などが霞んで見えた。

今が盛りのミヤマキリシマを堪能し、同じ経路をたどって法華院温泉に帰り着いたのが午後4時。ややヌルめの温泉にゆっくり手足を伸ばした。夕食後の食堂、思い思いに持ち寄ったウイスキーなどをなめながら山談義が始まった。お互い初対面ではあるが山仲間同士、話は尽きない。やがて誰ともなく歌い出し、おなじみの坊ガツル賛歌の大合唱となった。

平治岳のミヤマキリシマ



ミヤマキリシマの大群生

